

北九港&空 NEWS

2018
AUTUMN
Vol.14



岸壁に着岸するフェリー3隻 平成28年9月撮影

岸壁に接岸するフェリー 平成30年7月撮影

自動車物流センター 平成30年2月撮影

テーマ
北九州港「新門司地区」
ニュース
共同モーダルシフト事業が認定
浮体式洋上風力発電が公開

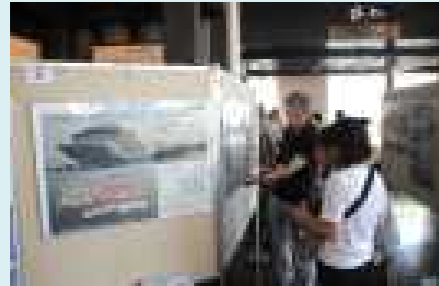
関門港ボート天国

イベント

ミニ・ミニ・トラ イアスロン大会

平成30年7月15日(日)、最高気温35度の猛暑のなか北九州市門司港レトロ地区において、「関門港ボート天国」が開催されました。「海の日」行事の一環として、海に親しんでもらうため毎年開催されており、今年で30回目を迎えます。-S W I M & R U N-大会、プレジャーボートの体験乗船や巡視艇の一般公開等も行われ、当事務所も、旧門司税関にて、北九州港のこゝろを皆様にご覧いただけるようにパネル展を行いました。

平成30年8月5日(日)、3年連続で開催している「第33回ミニ・ミニ・トライアスロン大会」が今年も開催されました。連日続く猛暑の中、総勢約300名が出場しました。水泳300m、走5km、自転車10kmをそれぞれ6名のメンバーで出場する運動不足の人コースにエントリーし、各競技を2名ずつで行いました。36チーム中28位と微妙な結果でしたが、無事に完走することができました。



ニュース (NEWS)

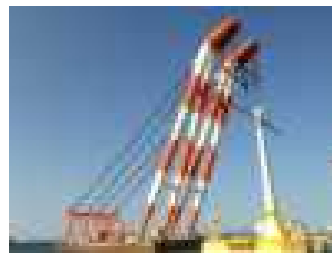
全国初、4社連携による共同モーダルシフト事業を認定

平成30年8月1日、国土交通省は関光汽船(株)、(株)キューソー物流システム、日本パレットレンタル(株)、ライオン流通サービス(株)が連携して実施する共同モーダルシフト事業について、総合効率化計画の認定を行いました。

計画では、関東・四国・九州を結ぶ輸送について、これまでは各社が個別にトラックで陸送していたところを、異業種の荷主3社による船舶への共同モーダルシフト(無人航送)により62.0%のCO2排出量の削減と、75.9%のトラックドライバーの運転時間の削減が可能とされています。



浮体式洋上風力発電 実証機の公開・設置



浮体式風力発電実証機 組立状況



平成30年8月7日 福井海洋政策担当大臣 視察状況 (右より、福井大臣、北九州市 今永副市長、木本港湾空港局長)

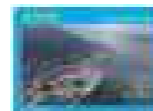
2 所属・役職は視察当時

平成30年8月10日、日立造船や丸紅などが、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)と共同で開発した浮体式洋上風力発電の実証機が北九州市若松区で公開されました。

遠浅の海が少ない日本近海のため「浮遊式」を採用。従来は100m程度の水深が必要でしたが、今回の実証機は小型・軽量化され50mの水深で設置可能となり、導入できる海域が広がります。実証機の風車は高さ約70m、羽の直径は100m、出力は3,000kw、羽は通常3枚のところを2枚と軽くしているのが特徴です。

平成30年7月31日には秋本政務官が、8月7日には福井海洋政策担当大臣²が実証機を海上から視察されました。平成33(2021)年度まで実証運転を行い、計測データに基づいて設計を検証するなどコスト削減を図る予定とされています。

九州地方整備局では、7月23日より、各施設を管理する事務所等でインフラカードを無料配布(全65種類)。配布施設等で希望すると1人1枚無料で入手できます。



国土交通省 九州地方整備局
北九州港湾・空港整備事務所

〒801-0841 福岡県北九州市門司区西海岸1-4-40
TEL(093)321-4631 FAX(093)321-5525
Webアドレス <http://www.pa.qsr.mlit.go.jp/kitakyusyu/>

西日本におけるグリーン物流拠点として機能する新門司地区



北九州港は、物流・交流・環境・安心・安全と多様な港づくりを目指している港であり、その中でも「新門司地区」は、西日本最大級のフェリーターミナルを擁し、多くの自動車関連産業を背後圏に集積している物流拠点として重要な役割を果たしています。
今号では、「北九州港の各地区を紹介！第一弾」として、「新門司地区」について紹介していきます。

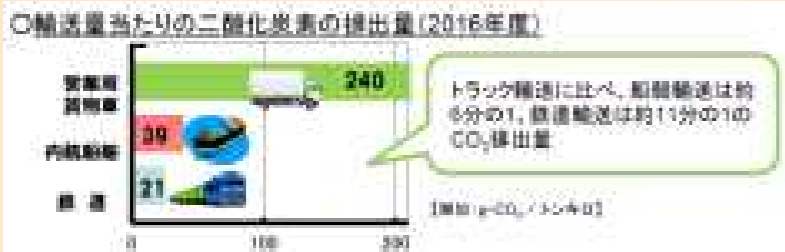
①新門司フェリーターミナル

北九州港におけるフェリー貨物取扱量は、平成29年(2017年)で約4,522万トン、大阪湾に次ぐ全国第2位であり、西日本における重要な物流拠点となっています。
近年、高まるモーダルシフトの需要に対応するため、フェリーの大型化が進んでおり、新造船の建造による輸送力の増強が図られています。

②耐震強化岸壁

耐震強化岸壁は、大地震の発生直後から、緊急物資等の輸送や経済活動の確保を目的に、通常の岸壁より耐震性を強化された係留施設です。
新門司地区では、北九州市における幹線輸送機能を確保するため、汎用性のあるフェリー用可動橋を備えた耐震強化岸壁を整備しています。

モーダルシフトとは、トラック等による貨物輸送を環境負荷の小さい鉄道や船舶の利用へと転換することをいい、環境に優しいグリーン物流の一環として推進されています。
昨今のトラック運転手の不足やトラック輸送における労働時間規制等から、フェリー輸送の需要が高まっており、平成30年7月豪雨では貨物鉄道等の通行止めによる代替輸送手段として注目されました。



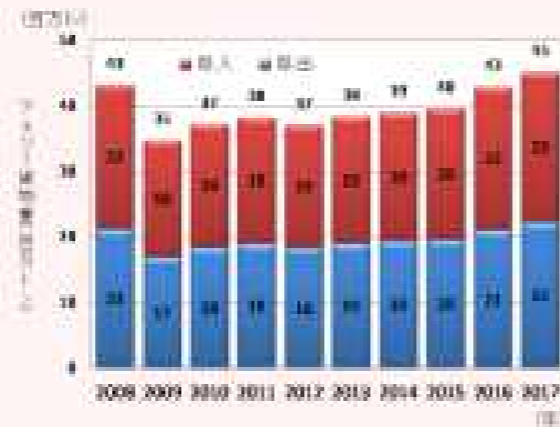
凡例
物流 (PCC船) フェリー

1 開発インターチェンジ
日本道路公団が、地域振興のため、地元自治体を中心とした第三セクターや公社から委託を受けて建設するインターチェンジ。

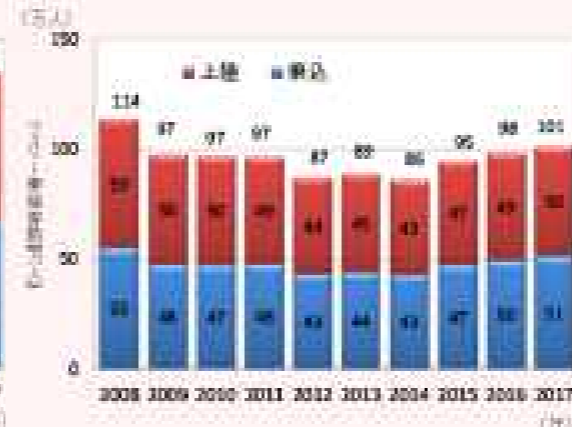
③新門司自動車物流センター

新門司地区では、完成自動車の輸送基地として、平成28年(2016年)に約48万台の完成自動車を移出入を行っています。
トヨタ自動車(株)は、平成16年度に新門司自動車物流センターを開設し、輸送コスト削減のため、博多港で取り扱っていた完成自動車輸送の一部を新門司地区に移転させ、伊勢湾地区(経由で北米、南米向け)方面への移出とともに、九州内での販売用の完成自動車の移入を行っています。また、他の国内主要自動車メーカーについても、九州販売用の完成自動車を名古屋港、水島港、豊橋港等から移入しています。

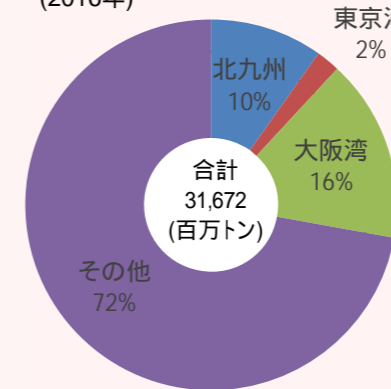
フェリー取扱貨物量の推移



フェリー乗降客の推移



フェリー取扱貨物量の地域別割合(2016年)



フェリー取扱貨物量の国内ランキング(2016)全国第2位



津村島
姫神が祀られる島

津村島は、新門司自動車物流センターの南側に浮かぶ島です。津村明神と呼ばれる姫神が祀られ、とり、明治頃は石炭も取れたと言われている。新門司地区の臨海工業用地計画の方々の策定に際し、地元の方々の要望により緑地として整備され、平成25年10月に津村島緑地として完成しました。周辺企業の方々の休息の場所として利用されています。

マリナクロス新門司

新門司地区は、特に東九州自動車道の開通により本州・九州への結節点として優位性が高まっており、西日本における物流拠点として企業の集積が加速しています。
「マリナクロス新門司」は、現在、国内主要自動車メーカーや運送業者の物流拠点など約100社の企業が立地しており、分譲率は今年度で94.6%(平成30年6月時点)に達する見込みとなっています。

フェリー航路 平成30年10月時点

内航フェリー航路				
船会社	行き先	発着	便数	備考
名門大洋フェリー	大阪	新門司	14便/週	
	神戸	新門司	7便/週	
阪九フェリー	大阪	新門司	7便/週	
	神戸	新門司	7便/週	
関西方面 計 28便/週				
オーシャントランス	東京・徳島	新門司	7便/週	
松山・小倉フェリー	松山	小倉(浅野)	7便/週	砂津地区で航路

